

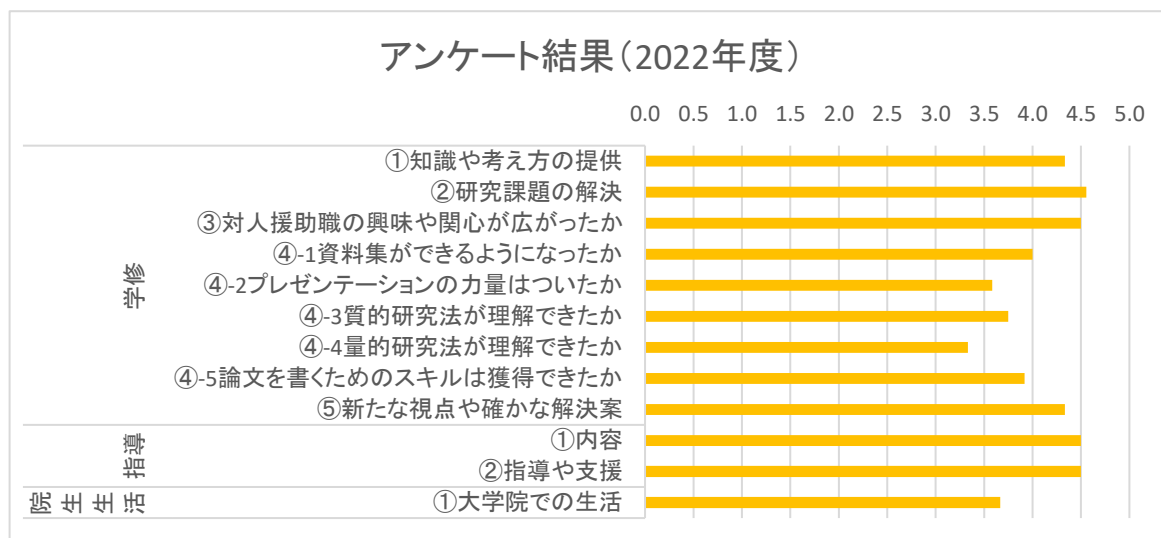
武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科 修了アンケート結果 (対象者：修士8名、博士4名)<sup>※1</sup>

項目	設問		評価※2					2022年度 平均
			1	2	3	4	5	
学修を振り返って	①新たな知識や考え方を提供したか	修士	0	0	1	4	3	4.3
		博士	0	0	1	1	2	4.3
		計	0	0	2	5	5	4.3
	②専門分野の問題や研究課題の解決に活用できたか	修士	0	0	1	2	5	4.5
		博士	0	0	1	1	2	4.3
		計	0	0	2	3	7	4.6
	③対人援助職の広範な取り組みに興味や関心が広がったか	修士	0	0	0	3	5	4.6
		博士	0	0	1	1	2	4.3
		計	0	0	1	4	7	4.5
	④_1資料集ができるようになったか	修士	0	1	1	4	2	3.9
		博士	0	0	1	1	2	4.3
		計	0	1	2	5	4	4.0
	④_2プレゼンテーションの力量はついたか	修士	1	0	3	3	1	3.4
		博士	0	0	1	2	1	4.0
		計	1	0	4	5	2	3.6
④_3質的研究法が理解できたか	修士	0	0	2	6	0	3.8	
	博士	0	0	1	3	0	3.8	
	計	0	0	3	9	0	3.8	
④_4量的研究法が理解できたか	修士	1	0	4	3	0	3.1	
	博士	0	0	1	3	0	3.8	
	計	1	0	5	6	0	3.3	
④_5論文を書くためのスキルは獲得できたか	修士	0	1	0	6	1	3.9	
	博士	0	0	1	2	1	4.0	
	計	0	1	1	8	2	3.9	
現場で生じる様々な課題や問題についての新たな視点や確かな解決案が考えられたか	修士	0	0	0	5	3	4.4	
	博士	0	0	1	1	2	4.3	
	計	0	0	1	6	5	4.3	
教員の授業や研究指導について	①大学院の授業は充実した内容だったか	修士	0	0	0	3	5	4.6
		博士	0	0	1	1	2	4.3
		計	0	0	1	4	7	4.5
②研究に対する指導教員の指導やゼミの院生の支援は、充実していたか	修士	0	0	0	3	5	4.6	
	博士	0	0	1	1	2	4.3	
	計	0	0	1	4	7	4.5	
院生生活について	①大学院での生活(授業や研究の環境も含め)は、充実していたか	修士	0	1	2	4	1	3.6
		博士	0	0	2	1	1	3.8
		計	0	1	4	5	2	3.7

※1 修士修了生8名。全員から回収。(回収率100%)、博士修了生4名。全員から回収。(回収率100%)

※2 1~5の5段階評価で、5が最も高い評価

★アンケート質問項目を変更したため、2022年度のみ集計結果を提示する。



## 1. あなたの学修を振り返って（斜字は博士後期課程、以下同様）

(1) 大学院での学修（教員や学友、調査対象者からの学び、調査実施や論文作成等を含…以下同様）は、  
あなたに期待に応えるものでしたか（期待に応えたと思う内容（知識やものの捉え方等））

- ・自分の専門外の分野からの観点を有することができ、それが自分の専門を客観視することができたこと
- ・自分の専門分野以外の知識やものの捉え方の視点が広がった。
- ・先生方の豊かな知識により、自身の学びを深めることができました。
- ・コロナ禍で登学ができないことが多かったので、登学しての学びが少なく、交流なども少なかったと思う。
- ・新しい知識、学び、自分のふりかえり、ゼミでの教員(先生)や学友からの学びは大きく、修論を通じ、自己の職務の重要性や内容のふりかえりにつながったと思います。
- ・多くの人の意見を聞き、捉え方の幅が広がったと思います。
- ・専門領域に囚われない生き方
- ・研究に対する姿勢。論文作成のための知識、技術。研究テーマに関して広く深い探求。
- ・新しいものづくり出していく力

(2) 大学院での学修は、あなたの専門分野の研究課題や実践の場における問題の解決に活用できるものでしたか（特に活用できたと思う点）

- ・現代の教育観、子ども観のルーツ 教育社会学における物事の捉え方 質的研究法の概観
- ・教育(学校)だけで解決を図ろうとするのではなく、心理・福祉の専門職と連携することの重要性を学び活用できると考えています。
- ・授業の工夫や学生対応に活用できると思いました。
- ・研究に関する取り組み方
- ・コロナ禍対応の養教の対応の研究を通じて、それ以外の学校組織で働く養教や教員、職員、管理職の協力を気づきました（新たな気づき）。
- ・他の分野の方からの意見
- ・勤務校における学生の論文や研究の指導、授業において内容に反映させるなど
- ・臨床に関する視点
- ・論理的に考えていくこと

(3) 大学院での学修を通して、“対人援助職”に対する理解が一層深まりましたか（とくに興味や関心が広まった点）

- ・援助の対象者を、その人の縦軸と横軸を踏まえ、共感的に理解しようとする姿勢について。また、一方で、距離を取って冷静に思慮する必要があることについて。
- ・福祉の視点からの対人援助職の仕事内容に興味・関心が広まった。
- ・コミュニケーションや心理について、もっと深く学びたいと思います。
- ・人を助ける仕事にさらにならばろうと思いました。人生100年。
- ・援助を受ける側の人、どう思うか、という点を今まで以上に考えるようになった。
- ・福祉の分野からの考え方
- ・特別支援の対象としてのニーズのある子供と共生社会の構築など、もっと探求していきたいと思えた。
- ・課題の背景など広い視野で物事をとらえること。

#### (4) 大学院での学修についてお聞きします（本研究科での学修を通じて、特に身についたと感じる点）

- ・人を心から尊重する姿勢（一言で表現すると）
- ・ものごとの捉え方の視点を広げることの必要性。
- ・言葉の意味を丁寧にしっかりと把握して文章を書くこと。論文の作法
- ・焦点を絞る視点と全体を把握する視点をもつこと。
- ・多角的な視点で考えること。
- ・修論の書き方、そのむずかしさ。
- ・レポートの書き方、構成についてあまり悩むことがなくなりました。
- ・自分に足りないことの多さに気づき、学び続けることの大切さに気づくことができました。
- ・自分の思いで論をすすめるのではなく、エビデンスをしっかりと担保していくこと。
- ・論文を修正する力。自分で新しいものをみつけていく力。
- ・論文の書き方、論旨の重要性がわかっていたが、どうしたら人に伝えられるかを学んだ

#### (5) 大学院での学修を通して、あなたの職場や関連領域で生じている課題や問題に対する新たな視点や取り組みヒントを得ることができましたか（今後、研究科に取り入れてもらいたい授業や取り組み）

- ・研究に関する授業がもう少しあると良いと考えています。
- ・アンガーマネジメントについて
- ・質的研究や量的研究の方法や分析の仕方
- ・学修システムを見直してほしい。よくわからないことが多かった。

## 2. 教員の授業や研究指導について

#### (1) 大学院で提供する授業は、充実した内容でしたか（特に良かった点や改善すべき点）

- ・どの授業においても、先生方の知識の深さを感じ、とても良い学びになりました。
- ・院生に合わせて、柔軟にご指導して下さったこと。
- ・指導教員がかしこすぎて、ついていけなかったのが残念でした。先生、ありがとうございました。
- ・オンライン授業がほとんどだったので、何が良かったのかはわかりません。オンラインの際、聞きとりにくいことが多かったのは気になりました。
- ・授業が面白かったです。
- ・個別にたっぷり時間をかけて、ていねいに指導して下さった。コロナで難しかったが、他の先生の研究室も訪ねたかった。
- ・人間的にすばらしい先生にめぐりあえた（指導教員）
- ・審査のプロセスで具体的な指摘を副査の先生方や審査委員の先生方からいただけたことはよかった（異なる視点から考える機会となった）。
- ・主指導教員だけでなく、多くの先生方から助言いただき感謝しております。

#### (2) あなたの指導教員の指導やゼミの院生の支援は充実していましたか（特に良かった点や改善すべき点）

- ・研究への取り組みを、否定することなく受けとめ、自身のペースに添った助言を重ねて下さったこと。また、細やかにご指導下さったこと。
- ・考え方や論文の作成を導いてもらい、一緒に考える時間を共有できたこと。
- ・ご指導いただいた先生には感謝しかありません。
- ・予定外の時間も調整して指導してくれた
- ・特に修論に関して提出したのに対して、早期にレスポンス(返して)下さりありがたかったです。多大なご

迷惑をおかけしましたが、先生ありがとうございました。

- ・皆で意見を出しあえることが良かったです。
- ・研究について多くの助言をいただいたこと
- ・個別にたっぷり指導して下さったことはもちろん、他のゼミ生とのつながりがしっかりあって、助け合い励まし合いながら取り組んでいくことができてよかった。
- ・ていねいに教えていただいた。
- ・思考力を鍛えていただいた。
- ・十分にディスカッションでき、納得してから次に進めるように指導いただいた。

### 3. 大学院での学生生活について

#### (1) 大学院での生活（授業や研究環境、交友関係含）は充実していましたか（特に良かった点や改善すべき点）

- ・いろんな施設が使えたこと。
- ・もっと多く、授業を受けたかったと思います。
- ・コロナ禍で、オンライン授業が多かったので、授業がオンラインで良かった点と、登学したかった点と両方あります（ハイブリッドが、助かりました）。
- ・オンラインと対面の両方出来たところが、ありがたかったです。
- ・コロナと共に過ごしたので、何とも言えないですが、それでも多くの人に出会えて良かったです。
- ・コロナで、集まって話し合える機会が少なくて残念だった。
- ・論文審査のあり方については検討をしてほしい。
- ・パソコンの立ち上がりが遅く、プリンターのトナーがきれていることが少し残念です。

#### (2) 大学院生活で、思い出に残っていることをご自由にお書きください

- ・院生のみなさんと、いろんな話を共有できたこと。
- ・科目等履修生から始まり長い間、いろいろな先生方をはじめ、助手さん、全スタッフの方々にお世話になったことが大きな思い出です。学生のために、本当にありがとうございました。
- ・いろいろな分野の方と交流できて、自分の視野をすこし広げることができたと思います。大学院に来てよかったと思います。2年間、どうもありがとうございました。
- ・オンラインで始まり、実際に登学して画面の向こうの人たちに会えた時の喜びは大きかったです。
- ・6月発表会は、みなさんの研究がきけて、先生方のご意見を伺えて、視野が広まりました。
- ・毎回、3時間以上、指導教員とディスカッションができ、大切な時間でした。ありがとうございました。

### 教員からコメント

丁寧にお答えいただきましてありがとうございました。

皆さんの在学中は、コロナ禍での授業、研究指導となりましたので、ハイブリッドでの授業が多くなりました。これにはプラス、マイナスの両面があります。対面でしか感じ取れないこと、対面でしか伝えきれないこともあり、対面の大切さを改めて感じました。その一方で、仕事や家庭（あるいは居住地）の都合・事情で通学できない際には、とても助かりました。教員側もハイブリッドでの授業やその準備に慣れない中での授業や研究指導ということで、学生の皆さんにはご迷惑をお掛けしたことも多かったでしょう。

研究科としましては、ハイブリッドのよさも分ってきましたし、その設備やノウハウも整ってきましたので、これを活かした授業、研究指導あり方を探っていき、社会人の大学院生が学びやすく、教員と院生、院生同士の交流をさらに促進できる環境を整えていくように努めていきます。今後ともご支援、ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。